

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1174500973		
法人名	医療法人社団 明和会		
事業所名	おぶすまの里		
所在地	埼玉県大里郡寄居町牟礼 1510		
自己評価作成日	令和4年1月28日	評価結果市町村受理日	令和4年4月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai gokensaku.mhlw.go.jp/11/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社シーサポート
所在地	埼玉県さいたま市浦和区領家 2-13-9-103
訪問調査日	令和4年3月14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

豊かな自然に囲まれ、四季の変化を感じられる環境のもとでのんびりと過ごして頂いている。同じ敷地内にデイサービス、地域密着型有料老人ホームも併設されており、地域の方々の触れ合いや交流が行われている。又、法人内診療所が同じ地域内にあり、地域の医療を支えている。これまでの繋がりを生かした極め細やかな医療面でのサポートも受けることができている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

●温かく見守る姿勢、介護と医療の融合等利用者本位の方針のもと支援が実践されています。取り巻く環境が変われども変わらぬ支援が継続されています。
 ●家族へは便りの送付により状況を伝えており、コロナ禍において窓越し面会等衛生に配慮しながら利用者との関係継続に努めています。本評価に伴う家族アンケートからもホームへの信頼を理解することができます。
 ●新型コロナウイルスの影響により地域との交流が縮小・中断されている中、小中学校とは訪問がならずともメッセージのやりとり等温かな交流が続けられています。また外出行事の縮小等に対しては、「いつもと違う行事・おいしいものを食べる・室内でできることをする」等の工夫により利用者のストレス緩和に努めています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)		1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	一人ひとりの個性を尊重する事業所の理念に基づいて、職員全体で確認し、利用者のニーズ把握、実践に取り組んでいる。職員には新人研修として施設長より理念等の共有を行っている。	温かく見守る姿勢、介護と医療の融合等利用者本位の方針のもと支援が実践されている。職員・利用者が移り変われども変わらぬ介護が継続されている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ感染の影響にて参加できる催しが減少する中で、小中学校による廃品回収などへの協力は行えている。	新型コロナウイルスの影響により交流が縮小・中断されている。その中で小中学校とは訪問がならずともメッセージのやりとり等温かな交流が続けられている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ感染の影響の中で、面会が可能な時期では、利用者家族に来園時の時間の中で相談を受けることがある。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ感染の影響にて会議が施設内のみであったが令和3年11月より再開し、毎月の状況報告などを行い委員から意見をもらい、実践に生かしている。しかしコロナ感染拡大につき令和4年1月から中止とする。	新規感染者の減少期には対面での開催がなされていたが、衛生への配慮により書面開催にて代替している。利用者の状況やホームの様子を伝え、記録を残している。	本年度の法改正により「運営推進会議を活用した評価」が可能となっている。参加者・実施方法等を検討していく意向をもっている。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	コロナ感染の影響にてできることが縮小されたが、歳末助け合い募金の協力、防災関連の相談、連絡、連携に努めている。	行政とは連絡をとり、マスク等物資の協力を得ている。利用者の重度化等行政や関係機関と連携し、対応を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関は基本的に施錠せず、声掛けや外に出た際にも一緒に付き添うなど対応している。身体拘束の研修を実施し、理解を図っている。	身体拘束廃止、高齢者虐待防止、認知症への理解等研修計画が組まれ、実施がなされている。身体拘束廃止委員会は運営推進会議の中に位置づけ、開かれた中で検討・研鑽にあたっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会やミーティングを実施し、理解や取り組みを図っており、不適切なケアについての話し合いが行われている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設内研修を通して職員へ説明する機会を持ち誰でも閲覧できるところに資料を置き、活用している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に事業所のケアに関する考え方や取り組みについて、利用者や家族等が理解、納得できるよう説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族が意見、要望を出しやすいように面会、来訪時などを通して信頼関係を作り、サービスの質の確保、向上に繋げている。	家族へは便りの送付により状況を伝えており、コロナ禍において窓越し面会等衛生に配慮しながら利用者との関係継続に努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者、管理者が現場でともに仕事するため、意見や情報を随時取り入れ、毎日ミーティングを行い、運営に生かしている。	月に1回のミーティングでは利用者個別のカンファレンス・行事の打ち合わせ・月間の業務整理等がなされている。振り返ることができるようミーティング内容が記録されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の意向も取り入れ、また各自の能力に合わせた労働条件を整えている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナ感染の影響で外部研修への参加ができないという状況。施設内研修では課題に沿って責任を持って資料を作り、全職員を対象に簡単な講義を実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ感染前は外部研修などで、同業者との交流は持っていたが、事業者同士での交流は不足している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前前面談等で生活状況を把握し、本人の思いや不安を聞き入れ、疑問、要望がある時はできる限り応えるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の求めているものや今までの本人のサービス利用状況を理解し、それをもとにこれからのサービス提供をどうしていくべきか話し合いをしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族等の要望・状況を理解し、改善に向けてどういった支援をすればよいか、パターンを考えて必要なサービスに繋げている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の趣味・嗜好・得意な事を日々の関わりの中で見つけ出し、共に平穏で安心な生活ができるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の状況の必要に応じ、その都度、経過連絡し、情報の共有に努め、今後のサービス提供の方向性も家族と相談の上、決めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの美容院への外出や、併設のデイサービス利用者の友人と継続的な交流をしている。	新型コロナウイルスの影響によりボランティアの来訪等が中断・縮小されている。家族とは窓越し面会などで関係を継続できるよう支援と配慮に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握できるように、普段の生活状況を注意深く見守り、共に助け合い、支えあえるようホールでの席を調整するなどしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他事業所に移られた場合も、共に情報交換を行い連携し、職員が訪問や見舞いに行くなど関係の継続に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人にとって最良の暮らし方と本人の意向をできる限り把握し、家族と関係者からも情報を検討している。	利用者個人ごとのファイルに基本情報等がおさめられており、入居時からの聴取した内容が記録されている。利用者が回答しやすいよう配慮しながら質問し、ときにジェスチャーを交えながらコミュニケーションを図っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	プライバシーの配慮を忘れず、本人の生活歴を知り、理解に繋げている。本人や家族、地域の人の力を借りながら継続的に行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活リズムを理解し、日々の記録や話し合いから、健康面や精神面の変化に対応出来るよう、本人の状態を職員全員で把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員全員でカンファレンス・モニタリングを行い、情報交換、共有、又、意見やアイデアを出している。	利用者、家族からの聴取と同意をもってケアプランが策定されている。ケアプランに沿った援助となっているか確認し、帰結として目標が達成できるよう取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人ファイルや食事、バイタル、排泄などの表を用意し、記録している。ケア記録は日中、夜間、医療・回診、評価などで色を区別し見やすくしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人・家族の状況や要望に応じて、必要な支援は可能な限り対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	訪問理美容や小中学校の廃品回収などを行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診や通院は本人や家族の希望に応じて対応し、安心感を図るよう心がけている。診療所併設の為、医師が必要な際には往診に来ており、利用者は安心して過ごすことができている。	診療所が併設されており、定期での往診により利用者の健康が管理されている。日々の記録から健康状態を報告し、排せつ・睡眠等へのアドバイスを受けながら支援にあたっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療法人施設の為、利用者の日々の変化は施設の看護師に伝え、迅速な対応や連携を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際には、病院と情報共有をはかり、定期的に見舞うようにしている。家族とも情報交換しながら、退院に向けて支援を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合には、本人、家族の意向を踏まえサービスの方向性を確認し、医師、家族、職員で方針を決定している。	利用者の介護度が全体として上がっており、入浴・排せつ・食事等重度化への対応にあたっている。入居時には重度化と終末期の支援に対する指針を説明し、利用者・家族に寄り添うよう取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AED及び心肺蘇生の施設内研修を年1回、その他研修などを行い、緊急時対応のマニュアルを整備し、周知徹底を図っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	必要に応じ、消防職員に立ち会って頂き、職員、利用者の全員参加で防災訓練を実施している。利用者家族や周辺住民への呼びかけも行き、協力関係を築く努力も行っている。	定期での避難訓練・消防訓練を実施している。地震・大雪等これまでの経験を活かし、職員の協力体制を築いている。	つづく新型コロナウイルスへの対応としてBCP(事業継続計画)の作成、職員相互派遣の検討、法人内での協力体制の明確化などを検討対象としている。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	基本的には普段から一人ひとりの尊重、プライバシー確保には気をつけているが、利用者への対応が不適切な場合は、随時、注意や個人面談を行い、一人ひとりの尊厳の配慮に努めている。	利用者の自尊心を尊重した支援に取り組んでおり、研修にて職員への留意にあたっている。利用者同士の関係性に配慮し、穏やかに共同生活を送ることができるようサポートに努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活やレクリエーションでは、本人が決める場面を作り、合同で行う場合は本人が納得した上で実施するように努めている。重度化などにより意思疎通が困難な場合も声掛けを増やすなどニーズの把握に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	共同生活であることから、食事、レクや入浴など基本的な流れはあるが、できる限り一人ひとりが自然な生活を送れるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の意向のもとで整容を整え、特に意思表示が困難な方でも注意深く観察し支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	家族が栽培された野菜の使用、施設で栽培した野菜を使って食事のメニューに取り入れったり、皆さんのリクエストも取り入れるなど工夫をしている。	選択できる昼食等利用者の楽しみを増やせるよう努めている。日曜日の昼食に調理レクリエーションを盛り込むなどコロナ禍において工夫したイベントがなされている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の体調に合わせて、量の調整、誤嚥防止のため、食べやすいように刻むなどして工夫している。食事量は記録し、バランスの良い食生活ができるようにしている。本人の好みを把握し出来るだけ食べてもらう声掛けも行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分で出来る方には、声をかけ、できない方には口腔内の清潔が保てるよう介助や見守りを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの状態に合わせて、トイレ誘導、ポータブルトイレの使用、時間帯や状況によりオムツやパットを使用して排泄の失敗を減らすよう支援している。また、状況を見て必要のないオムツやパットの使用は減らすように努めている。	利用者一人ひとりに合った装着ができるよう講習会を受講するなど装具の宛て方について研鑽がなされている。また排せつの状態についても日々の記録が細くくなされている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防に向けて野菜を中心に、十分な水分補給を心がけている。排泄チェック表で排便状況を把握し、便秘になりやすい方には必要な応じて服薬、浣腸で排泄で排便を促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴を拒む利用者にはスムーズに入浴しやすいように早めの時間にする。チームプレーで声掛けや対応の工夫を行っている。	利用者の重度化が進む中、状況や状態を考慮し、シャワー浴等柔軟な対応にあたっている。無理強いすることなく、職員や声掛け方法を変えながら利用者本位の入浴となるよう努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活のリズムが崩れないよう、日中はなるべく活動を促し、状態により昼寝の時間をつくり昼夜逆転などの予防を行っている。日中は夜間の不眠者、体調の把握を行い、状況を見て休息がとれるような配慮もしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬関連の書類やほんを閲覧できるようにし、服薬状況や処方薬の変更などを確認できるようにしている。また、施設内研修により誤訳事故の防止を周知徹底させている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの役割や楽しみごとを見出し、できることをいて頂き、感謝の言葉を伝え活力を引き出せるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は努めて外気浴を行っている。施設内敷地のみかん狩り等行っている。	新型コロナウイルスの影響を考慮し、外出行事の縮小等対応している。外出のかわりに「いつもと違う行事・おいしいものを食べる・室内でできることをする」等の工夫により利用者のストレス緩和に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の所持は、家族と本人の意向を踏まえ、施設側で管理したり、安心できるように少額の所持金を持って頂けるようにするなど支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族に電話をしても良い時間帯や場面などを確認し、本人の希望で電話できるようにしている。又、携帯電話を所持している方には自由にかけられるようにしている。手紙についても管理者が預かり、近くの郵便局に投函するなどしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者と共に制作した作品や書道などを掲示して居心地よく過ごせるよう、共有の空間づくりをしている。季節感を取り入れた制作を利用者と一緒に行っている。	消毒、換気、検温、PCR検査実施等により新型コロナウイルス感染蔓延防止策がとられている。ワクチン接種についてもスムーズに実施され、最善の策を講じるよう取り組んでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者同士の関係等に合わせたテーブルの席や居場所作りに配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が安らぎを得るような馴染みのものや昔からの物を使用し、家族の方にも理解、協力して頂いている。	居室担当職員により居室の整備や衣類の整理がなされている。利用者のプライバシーを尊重し、それぞれが穏やかに過ごせる環境形成に努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	危険防止、防災運動の為に施設内の環境整備に努め、一人ひとりが自立した安全な生活が送れるよう工夫している。分かりやすい表示など心がけている。		

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	本年度の法改正により「運営推進会議を活用した評価」が可能となっている。参加者・実施方法等を検討していく意向をもっている。	コロナ禍ではあるが、現状を維持し、会議の継続に努め、市の職員からも意見の聞き取りができる。	事前に資料を送付し、得た意見を運営推進会議に報告する等、一定の関与を確保する。	12ヶ月
2	35	続く新型コロナウイルスへの対応としてBCP(事業継続計画)の作成、職員相互派遣の検討、法人内での協力体制の明確化などを検討対象としている。	①BCP作成後の職員間での周知の徹底。 ②法人内、職員相互派遣への協力体制の確立。	①PCR検査 2回/月実施、手指消毒、毎日の検温、フェイスガード装着の徹底。 ②法人内では本館・新館分け隔てなくフォローできる様、記録用紙の統一や業務の見直しを行う。応援職員派遣体制や受け入れ体制を整える。	12ヶ月
3					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。